江戸名所花暦

冬

あたなゞ

385.8
O54ye
W

385.8
O549e

江戸名所花暦巻之四

冬之部目次

○寒菊　○水仙　○寒梅
○山茶花　○枇杷　○茶の花
○補樹　○松　○拾野
○千鳥　○雪

国立国会
26.2 1
図書館

223740

江戸名所遊覧花暦巻之四

岡山鳥　編輯

江戸

平河山法恩寺　本所押上にあり此梵刹のしろのあたり農家多く雪候の草花を作る中にも多くは寒菊を作る比花盛なる中に黄金いろなる田園をうえ流したるとなり此花も限なく清地千壽寺にて作る なり當院は古田道灌の息男源六郎早世し法名を法恩といふの菩提のためとて又道灌一宇の精舎を建立し法恩寺と號し昔

御城中平河口にありそのゝち柳原よりうつりて元禄の年中此地へうつさる毎年六月二日より法華経千部の執行あり

○水仙

押上植木屋　此花に限らハ深井三済巣鴨四ッ谷目黒辺あまたありといへども花少しも早く咲出るをよしとす神仏の縁日にもち出て鬻く

向島の辺

○寒梅○山茶花○枇杷○茶の花

風流人の別業あるひハ隠士の庭中にあり志る人ぞも此花に限るにあらん生垣の中に交えまじりて園中に一樹もあるのミよりて多く樹たるなし

殺と云て絹を宮殿に出せしに堀のうちまで山の石ん又
根岸の方にもあるなり

○連理楠

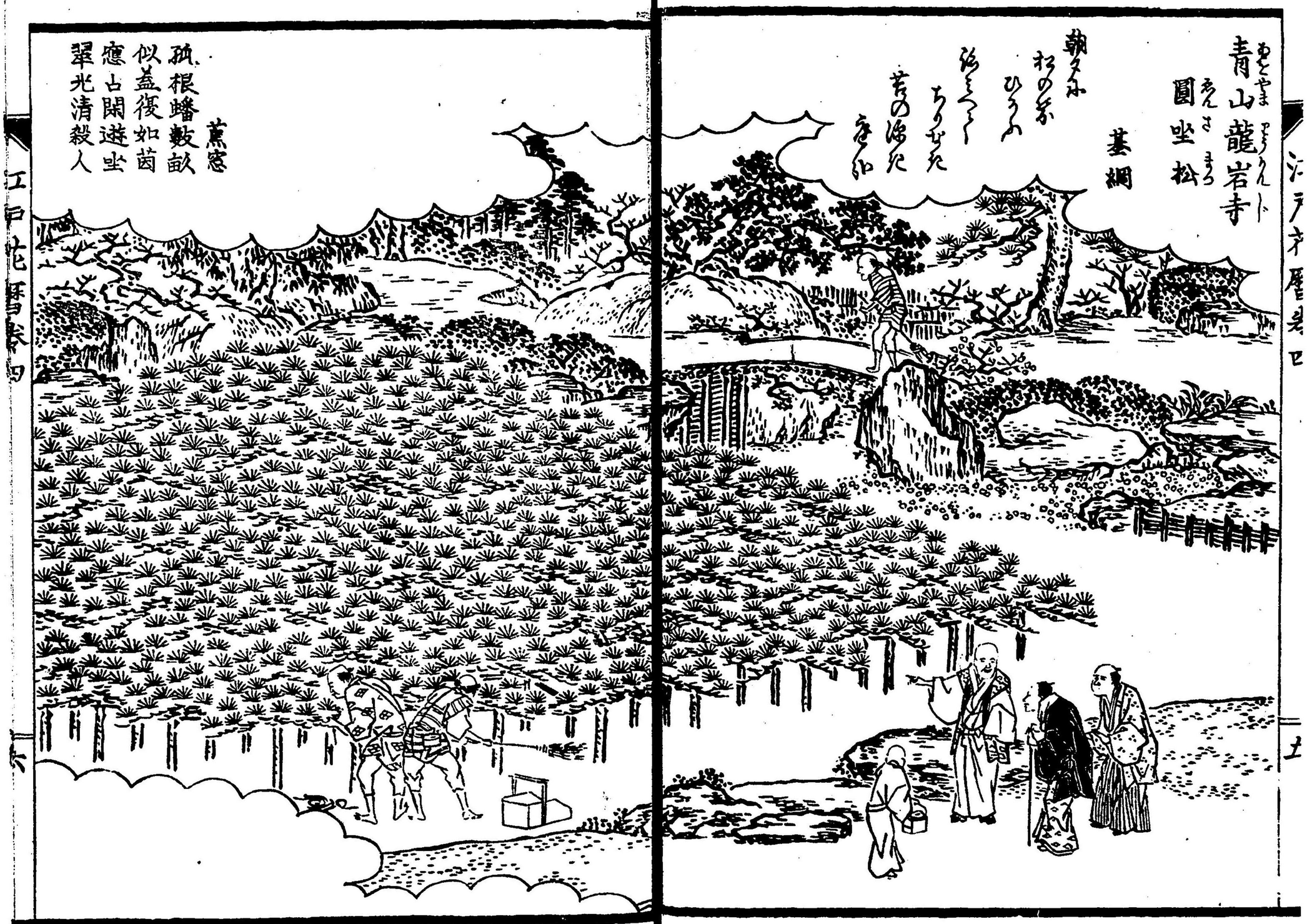
吾妻森　小村井亀戸の四五丁北小村吾妻大權現石の
宮殿なり當所なる花姫の廟なりしの孫なり
景行天皇七十六年乙卯とのひはじめの元二年歳に
尊の東武第一の古蹟なり上古の里俗のなまりて
のぶを山なり殺木葉人井出大学なりしの人ふるひ
新立せしなり立花姫神霊ハ東海鹽ノ八百
會陽魂ヲ止ノ給ヒ海上ノ守護船ノ玉ふのよりはじめ

海上船中の守護神なる氏なり日本紀景行
天皇四十年十月日本武尊相模國小をて
上總に至らんと船みめぐりきるに海中にて暴風起
震雷あり清船危うしに尊の妾弟橘姫と
ありの穂積氏忍山宿禰の女なり尊に云て
風波をしづめくてはあれを沈んとまれ海神の
怒なり移りくい妾の身をもて主命の續て海の
いらんと海中に入る暴風忽ちに船岸の
妾死なり○着岸の地なり上總國君津郡
君津と云ふの処なり吾妻大明神あり
あれ即立花姫の奥社なり○立花姫の本出相州と

大磯梅澤のほとりにあり上の宮とよぶ橋姫乃
浮弥の流をよろこびかとりのまゝに當社を
稲荷の神といふの説もあり或云むかし下總國
相馬ノ一人の美女来りて曰我ハ是弟橘姫の霊
なりとそのとき一の宝器を海底にしづむこれより
何んとして三百余年白瓶と変じ海中にありと
殺ける霊神称へ備へてこれを深ちかふを
これ色〻と著ていの事中のるりいて凡人の力に及ばし
や又いのち自夕陽あるにやむやく日あきその時君去
津の浦に至り船より将を敷をさきして水中にひとし
太鼓神をもつて霊神を驚しかしその日を期に

しかしおくのまゝせし海上高波おこりて舟あやうく
汀によりし時にひとつの白瓶宝器をさゝへうかびいづ
然に船に投入陸にあがる以前の美女と現じて其の宝器
を收め稲荷大明神とあがめ奉り当社にいますの称あり
されいの宝器は鍼り瓊ら珠あるがゆえに当所を橘の
枝葉を燃し後それは諸病を治せしといふは是にて
衆生に祈る枝をもちひある人いのりてもさらに深く
その香樟脳なり樟と楠と一類二物にして樟を
香ばしく木心黒赤なり樟脳を製するもとあり則
此神木の樟なり一品にはあらねどもいの香よくして色
も黒赤にして又楠の名にかゝるなり木理節

223740


青山龍岩寺
圓坐松
基綱
朝々ゑ
松の緑
ひろゝゝ
ちりぬる
花の海に
春の日
薫窓
孤根蟠數畝
似蓋復如茵
應占閑遊坐
翠光清殺人

そのまゝにありて石ゝもあり〳〵石ゝもあり〳〵堂し
これを敲ゆ金声成出ると

○松

宮八幡社　高田戸塚村別当光松山敬生寺ゆ光り
松とゆあり山ゝの麓義経山ゆ里人伐はじ
てたゝ一りゝの松のみのこりて寛文十三年にあたりて
四方廻の興力此処よゝ子の稚旨古めりしゆり弓矢
の神なれゝ八幡宮成勅ゆ寺と催せゝ
山地三羽日角ゝ有る有ゆ二本の松を神木とあゝ
花表をたゝる同十八年周防国山に八幡の氏人良昌
僧都ゝ毛利家の人ゝ〳〵接本付来たゝ遣せゝ

田圃り御とゝ〳〵当国ゝ来ゝ雑司谷ゆ紫園の
ゝ中ゝ成ゝの後中野室泉るに〳〵法印秀雄
の云ゆにありしをゝ社僧ゝ成あゝ秋草
庵をむゝ〳〵と地を〳〵ゝ崩したる山の麓
にちいさゝ成宮ありにせゝ奥の方九尺ゆあゝる
その出ゝ長三寸ゝの仏像石ゝに成しゆゝを
良昌ゝれを尊むゝ〳〵此処を宮八幡といゆゝの
宮今ゆあり当山の縁ゝり法きゆゝ〳〵ゝ
巳石清水の名成あゝ

西歸山常光寺　亀戸六阿弥陀六番目来迎松ゝ
堂のゆゆゆゝ中古火災のゝ成本尊此ゆ小さひ

こゝなりの人面瘡名たゝるなり竜燈の松とゝ
本堂のうしろに大門と入ること正面本堂と
龍岩寺　青山よりの大門と入ること正面本堂と
これ弘法の作とは曲れい後園にあり
人ふ安うこゝ志めんうたあに円坐松のわゝ
かりて一限ねめ庭へ引のり芝ふ歩そうれい枝
紫天弘霊験うこゝ又ふ仏ゝる松王子の貨食店
扇屋の庭にあり
○松の名所弘枝拳ゝ枝樹ゝてらるゝ
往古ゝ名所と唱へ引る処の二樹と中興作まる処
の両種をなくるめゝ

○柘野

淺草雜司谷至堀之内路

その石ころ〻風景あり隅田川の東の郡地なり

四時の眺めなる事なれいつもさゝぎり多みあるゝと

処〻雜司ヶ谷よりこの野の辺へ出る所あり山間

の耕地なれとも清らの流れせゝとなりくゝ村ある地〻

○千鳥

例 嵜

海潮山增福院辯財天を安置と用基を

紀是院隆光大僧正家の菜春河辺氏と當院の海

岸少て赤い房総の岩山浪をひゝ南の羽根田支那

川止い瓦波根のうゝ佳景の地〻遠内

貨食屋彩色はゝ内柘野を風をいゝ〻〻

この横ぜゝに集りて〻ふ鳥を中河彩徳もよゝ

○雪

愛宕山

芝小あゝの山上ゝ雪中よゝおろせゝ

柘藤よりはゝれるゝ綿をゝ〻家居をは〻る

小仏ゝり遥小ゝ安房上総の山〻見たゝゝ

本ゝゝ行基の作ゝて徐軍地義ゝ毎月廿四日

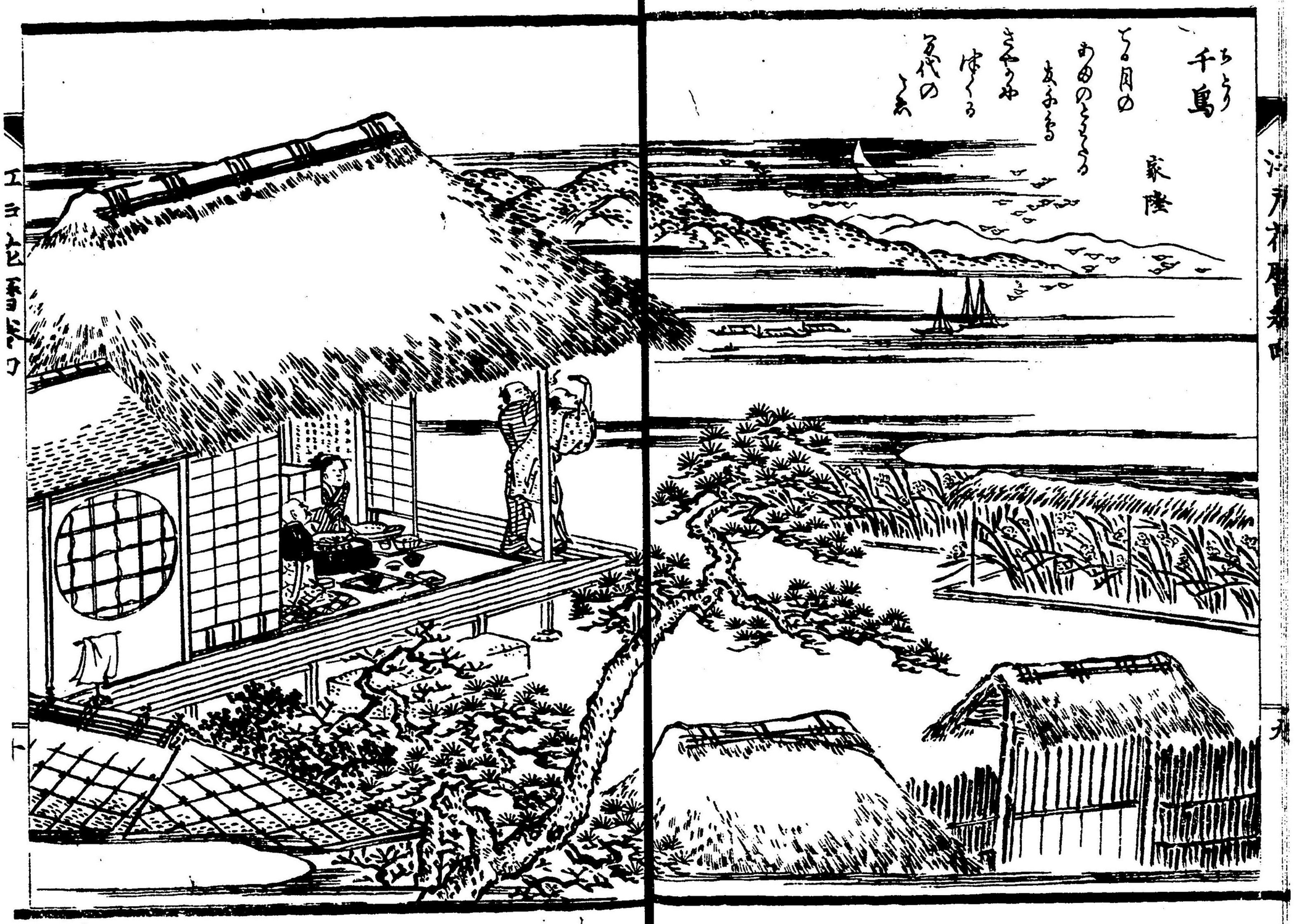
縁日たり六月廿日四万六千日と号して系信殊

に群集此日境内ゝ鬼灯鬼灯鄙小児

ゝ香ゝゝ虫の病の根を切ると云ゝ

高輪

この海岸の酒樓ゝ海上ゝ雪乃


ちとう
千鳥
家陸
とる月の
あめのとぶとり
友ふる
さをうゆ
ゆくる
百代の
こえ

給へたるなりさるを仏小比丘尼
長命寺　隅田川の流曲行の角にあり境内ハ芭蕉の
碑あり此の辺よりて左右共に眺望の景色
いとゆかしくぞ

いさゆゑ心霊ゑんかの名ハ高くとも
牛御前王子権現社　同所南の方ハ別当の最勝寺
と号て本所の總鎮守にて祭礼の隔年九月十三日
北本所石原新町の猿所へ神幸ありて同じく吉
帰輿あり祭神素盞烏尊牛御前と称て慈覚
大師勧請せり清和帝第七皇子王子権現と称
せり昔ハ二坐ありし相傳ハ清和天皇御宇貞観二年

庚辰秋九月慈覚大師東国弘法の比素盞烏尊
住宅の老翁と現じ此地ハ永く國家を
守護せんと告あり仍て大師一社を奉し上宮
の良本阿闍梨に留て是を守らしむ故に
良本彫像の大日如来を本地佛とし又五十七代
陽成院の御宇清和帝第七の皇子當国に
迂されさせ給ひ天慶元年丁酉九月十五日あれ
ぬ雲にたりて岡山良本阿闍梨に
葬り奉り牛御前の祠廟に勧請せり
其後霊告あり素盞烏尊第二の御子
假に清和帝の皇子と生れ給ふと云

牛御前
法華千部供養碑
長三尺三寸計り
巾壹尺六寸五分程
厚貳寸余

碑陰銘曰
奉造立釋迦像一軀
貞観十七丁未天三月日
法華千部　明王院

三圍稲荷社　同所南の方此境内隅田川のすれきに隅田稲荷社の左右なる耕地にすれい拾田水玉屑の積まるなりさ自然豊年の貢ものとなりぬ

待乳山　又真土山　聖天宮を安置せ金龍山本龍院霊験あらたにして緒人信仰なり此山の麓より沖よりの眺入津の目印なりとなり深川本所の辺海なるとなりの目當なるよし待乳山を武蔵後河大和江戸名あれい古歌あるとなもいふ茂睡ら歌ありたるなり山

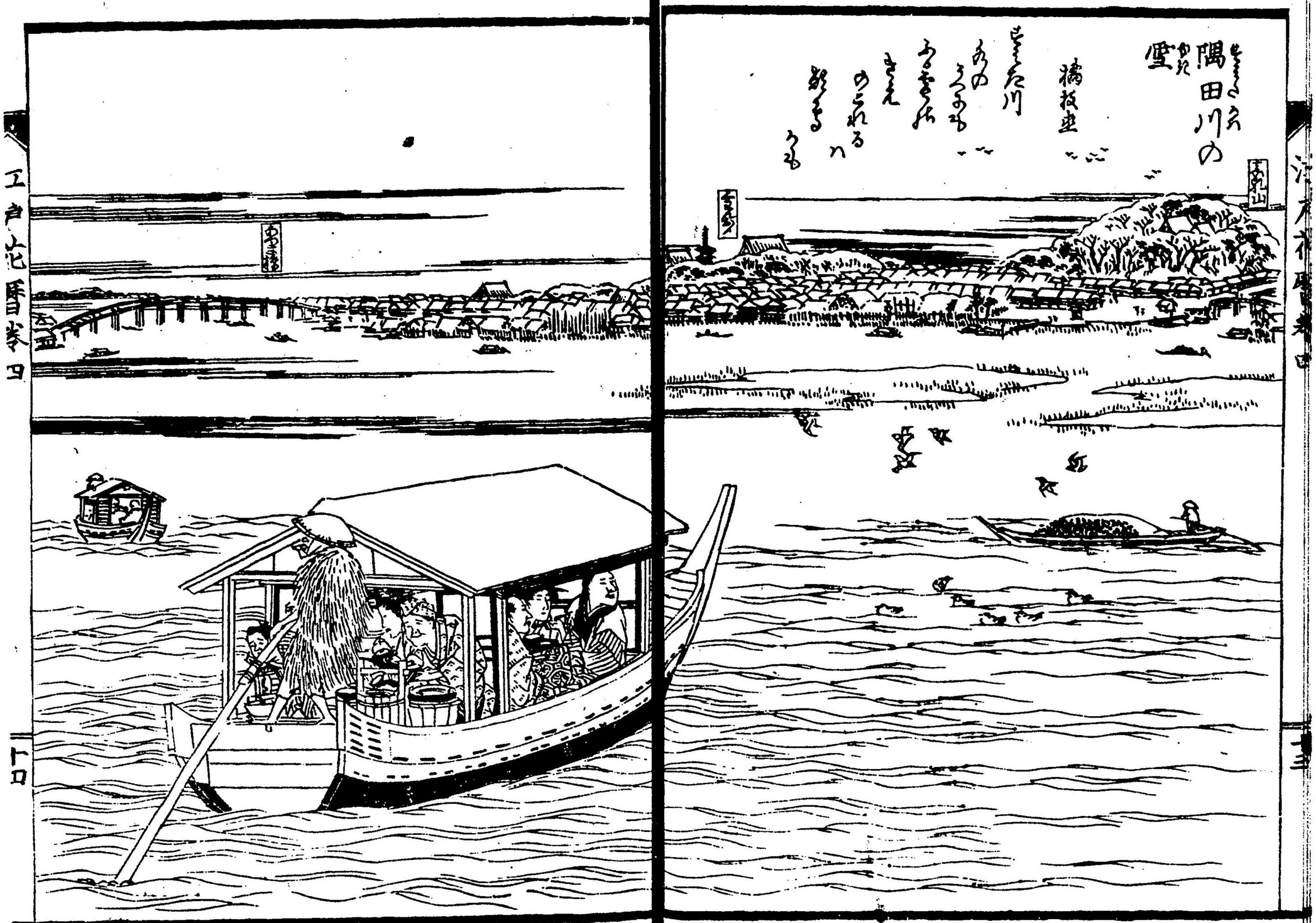
碑なり

あられとふたえをゆく人もとまるちの山ふかきとの茶

戸田恭光入道茂睡い江戸の人なり戸田茂右衛門と称し後本々彩ふ坂邊ふ住て梨本と号しぬ又駿河殿

の家老なり渡辺豊物忠とゝ一人の六男なり
父は忠八戸田与五右衛門忠猪の次男なりれい父乃
実家の綱を冒す一なる爲一著述あり寶永
三年四月十日小終る人なり然るに隣女悟言あり
隠家の茂助なり元禄の頃より江戸浅草の市人
に茂次とゝいふ者有り云々ちゝの世とかりの名
はりとゝと云歌を出たりそのゝもゝ
たりゝちりの世成いとゝの名のはりとゝ家かくまの
山とゝとゝれと有そもとゝかりある辺世醫人傳小
も隠家の茂勝とあり江戸御家士なり隠遁せ
る人れを云云とゝ歌道小古學成編とるゝ此人
近世の魁なり奏の陳述にひとゝとゝるハとの
人をまるさめなり元禄十七年二月廿日なり
著小家とゝいたりゝ二書ともそのほゝこの
たるゝる爲一紫一本に尼了然のゝ記あり
たる花のゝのうゝこの外の茂勝法師とあるもこの
ひとゝゝそのゝのゝ歌六首こゝゝ此山の碑も
いゝゝゝ半ゝゝ石成添ゝ補せゝゝゝゝを好事の人なり又
ゝゝゝ靈飄ゝゝ

○むゝ此門前ゝ鷲名ゝ似たり
ゝ毎小唄小一童話山て同道ゝよりゝゝひ


隅田川の雪
猪牙船

りうよりはんちうとうたりと此所代を天和
よりと享保の頃まつりかり

市ヶ谷八幡宮　別當稲嶺山東圓寺神牌を馬上
甲冑の尊形文明年中太田道灌持資江城の乾
より相別雀岡八幡城勸請し武城擁護の基とし
東圓寺を建別當とし山を稲嶺と号し稲荷
大明神往古より鎮坐ありしと大永年中の兵乱
に破壞せその後慶長の頃御大城御再興の
ちたる當空源昌運カ城を造立手を注て
いまくの壯觀ふ優也表門鳥居の内左右のあるふ
茶の木の稲荷と称するあり俗説小當山より白狐
ありけやまとうく菊の木ふるく見成突たるあり小菊成
いとしたまの神の氏子正月三ヶ月今に菊をのま
ちまつ服成ものの一七日二七日菊をあらく
願ひはれいまやうにて験ありといの山上雪氣色宜し

豊島岡　古城ありといふ大永四年甲申正月上杉
朝興の家老太田源六郎金弟源三郎反逆して小
田原より通し相國を宮小条氏綱一万五千余兵を
率て武蔵北の城より城を朝興八千余兵
を率て吊川まつたし出お戦ふ此ほうち負て
引うつを氏綱猛追ありて詰る朝興城の城より落る氏綱翌日城より入て
其後のうちふ河越の城の城より落る氏綱翌日城より入て

思ひ寄の御ゆゑ遠山四郎左衛門尉とぞ世人
岡と今の上野なりとぞ又ひさしく此のかうべ
の所あるべきもいかなれども思ひ岡いかなる
いろ徳ゆゑなるべきある人の曰ひさしく此の出御あるべ上野
ゆゑもあるべきあるべ思の池へ雪の降かゝる気色いと
一風の勝地なり

東叡山寛永寺

人皇百九代後水尾天皇寛永年中
草創比叡山延暦寺に倣はされ　御大城の鬼門を
守る霊場とぞ天下泰平の御祈願所なり
西大師　慈恵大師　本土江州浅井郡又は木津氏
母は物部氏なり延喜十二壬申年九月三日生　諱良源

寛和元乙酉年正月三日入寂年時七十七
慈眼大師　本土奥州会津郡高田郷義澄の末孫
とぞ人俗氏の事は氏姓も行年も詳かならず
一説に空門に入れりとぞ
諱天海　寛永二癸未年十月二日入寂縁起
の年代を考るに凡百七十年余なり
慈恵大師の霊像　民部法眼筆　慈眼大師の霊像　法印
探幽筆　元亀の頃山門逆徒のために焼亡
梨公の字させたまへる真新　英林民部法眼の模写せ
と両像共時の作なり　福城場つゝ貢ぎ香華谷
を移すべき業なり　献軍及ばさんとぞ敬の

揚弟坊云元三大師の尊像なりたりとぞ毎月
朔日ごとに一とせの世のの大将木下藤吉郎ことを少免
をかきて拜を形ち道をひらく堂田の傳より新よりく
湖東歌田井の庄水墨居をそのち天正年中再興宵
て尊像を横川より坐ぬ今に四季薄を水安
置しまる尊像い伊勢國安濃津西来ちにたくあくちる
元三大師縁起曰寛永十七年慈眼大師　将軍家御令嗣
御誕生の御いのりのためにて當山水安堂し丹誠し
たまひに八月三日いと手よ生させたまひとのもとに
所出胎のお辰登山入寂にいたるまで三日と朝日と
ぜり御誕生ひとつよそる像の尊顔よ作る慈眼大師

遺言ありい本山の例かりもせて別列ようまもあの
真影當山坊て三十日ごと巡番ふ執事なるへ大權
の聖像と並んいそのおそれなりもめ孫と系須像も
あとふ去とりひて古もに大樹の御武運を守り國土豊
饒をめくちんとて千畳いるも此例ふ違いと毎日順番の
寺院へ迂坐あるの十月八日年御本坊ぜり玄冬ふ至
雪の御ふ後此山王山ふ登りてぜりもとの吉祥閣へ
ぜりもとふありさ海内一の絶景ぜり案
いとえりもとそもむて此年あるきる雪の明像の者　御製

江戸名所圖會

全部廿卷

齋藤長秋居士　編
既刻　同　莞齋先生校正
法橋雪旦先生画圖

天保八丁酉年春正月發行
明治廿六年十二月廿六日印刷發行

發行兼印刷者　大橋新太郎
日本橋區本町三丁目八番地

發兌書林　東京日本橋區本町三丁目
博文館